
ロッカー

大和伊織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロッカー

【NZコード】

N17800

【作者名】

大和伊織

【あらすじ】

いつも通りロッカーを開けてみると、『私』の私服がなくなっていたのです。

それは私がいつも通りロッカーを開けて着替えようとしたそのときでした。中を開けてみると、私の着替えが丸ごとなくなっていたのです。

私は思わず、えつと小さく叫んでしまいました。残っているのは、ハンガーに掛けていた年代物のコートだけでした。思わずロッカーの名前を再確認しましたが、やはり私の名前で、中にあるのも私のコートです。着替えはどこにいったんだろう、と注意深くロッカーを覗いてみると、ロッカーの床といつたらいいんでしょうか、下のところが色が変わっていたのです。

とにかくコートだけでも引き上げようと思ったら、拍子にハンガーが外れてしまい、床へ落ちていき、そのまま見えなくなってしまいました。私は先ほどより大きな声で叫んでしまいました。
え、まさか嘘でしょーそんなわけないよねー

一人でそんなことを呟きながら、恐る恐るハンガーをもう一本床に置いてみました。ハンガーは律儀に消えていました。

まさか私服が消えたなんて誰にも話せず、私は「私服がどこかいつたあ」と馬鹿笑いしながら、シャツとジャージだけ借りて帰りました。彼女がジムに通っていたこと、私がドジなキャラクターで馴染んでいることが幸運でした。

翌日、私は私服をハンガーに掛けることは忘れなかつたのですが、ついうつかりしてしまい、休憩時間に制服を脱いだ際に、制服を床に置いてしまつたのです。当然制服は消えてしましました。まさか私服で働くわけにもいかず、慌てて担当の方に太つたので制服を下さいと言いに行きました。サイズが変わったのは本当で、怪しまれ

はしませんでした。太つてもたまにはいいことがあるんですね。

しかし何度も続いて誰か怪しむでしょう。そして私のドジ癖は治らないでしょ。誰かに理由を話してロッカーを変えてもらうか、この気味の悪いロッカーを廃棄してもらえばよかつたのですが、私はこんな馬鹿な話を誰かに話す勇気はありませんでした。それに加えて、私はなぜか、このロッカーの秘密を守らなければならないというよく分からぬ義務感が生じていたのです。私が気をつけてさえいれば、見た目はただの古びたロッカーなんです。

けど、本当に、本当に、嫌になりますね。酔つた席で、うつかり仲のいい上司に話してしまったんですよ。彼は大笑いしてましたし、私もどうしようと焦つてはいましたが、まさか信じないよね、と、なんとか安心しようとしたしました。

翌日、いつもその上司に怒られていた新人さんが、お休みしていました。次の日も次の日もお休みしました。皆が心配している中、上司だけは真っ青な顔をして、誰とも口を聞いていませんでした。まさか、なんて問い合わせは、勇気のない私には出来ませんでした。そしてきっとこれからも、誰も聞かないでしょう。上司もいなくなつてしまつたんですからね。

ロッカーを廃棄しなかつた私が悪いんでしょうか。
だつてこんなことになるなんて、誰も思わないでしょうか?
次にロッカーに入れられるのは、私かもしれませんね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1780o/>

ロッカー

2010年10月12日19時58分発行